

2022 年度子ども・保護者アンケート課題と対策（更新）

この度は、アンケートにご協力いただき、ありがとうございます。

学童クラブによる回答率は下の通りとなりました。

いただいたご意見を整理し、小さな意見も大切に、今後の学童クラブの運営に活かしていきたいと考えております。丁寧な回答を心掛け、今回は一部になりますが、引き続き、第 2 弾として 5 月 1 日を目処に内容を更新いたします。退所される方もおりますので、メールでのお知らせは致しませんが、どうぞ今後の回答にもご注目いただけましたら幸いです。

保護者アンケート

梅園学童クラブ 全対象者：87 世帯 回答率：45%

清明小学童クラブ 全対象者：70 世帯 回答率：34%

四小学童クラブ 全対象者：57 世帯 回答率：54%

八小学童クラブ 全対象者：73 世帯 回答率：49%

中清戸学童クラブ 全対象者：74 世帯 回答率：47%

清瀬小第 1 学童クラブ 全対象者：82 世帯 回答率：44%

清瀬小第 2 学童クラブ 全対象者：59 世帯 回答率：49%

十小学童クラブ 全対象者：50 世帯 回答率：64%

●一人ひとりのお子さんが楽しく過ごせるように、興味や関心に合わせた活動・遊びを取り入れているか

【保育の配置基準のようにはいかないのですが、一人ひとりに配慮されているとはいえませんが、仕方がないことだと思います】

回答

梅園学童クラブでは、基本、子どもが放課後の時間をどのように使うかを自分で考えてもらって過ごしています。「おやつを食べる時間は 16 時までにはしようね。」という約束はありますが、登所してから学習をするのか、あそびをするのか、おやつを先に食べるのか、外遊びに行きたくない子どもは部屋で好きなことをして遊びます。支援員は一緒に遊びながら、子どもの手助けをします。

【上の子はけん玉に興味がなく、毎月 1 回のけん玉チャレンジが苦痛のようです。昔ながらの遊び遊びができる良い機会ですが、選択の幅があると良い】

回答

学童クラブのイベントの見直しをしてもらいます。けん玉チャレンジも全員参加しなくてもよいことです。行事やイベントを支援員主導ではなく、子どもたちが生活の場で自分達のやりたいことを考えたり、企画したりできる子どもが主体となる学童クラブの運営を目指します。子どもが苦痛に思うことを素直に支援員に話せる雰囲気作りをまずは目指していきたいと思いま

す。

【土曜日がつまらないと言う】

回答

土曜日は学童で過ごす時間が長いので、子どもたちと一日のスケジュールを相談しながらすごします。校庭あそびや室内あそびなどゆっくり自分のペースで過ごすことを大事にした考え方です。室内遊びは、いつもの遊びに加えて、あまり時間の制限にとらわれずにじっくりとりくめる工作あそびなども提案しています。子どもたちにとって、学童クラブが安心してのびのびと過ごせる大好きな場所になるように支援員一同、日々努力していきます。

【夏休みの事前連絡等について】

回答

夏休み前の7月上旬に、「夏休みおたより」を学童クラブで発行しております。連絡事項はここに書いてお知らせするようにしています。もし配布もれがございましたら、大変申し訳ありません。今後はそのようなことがないように複数のチェックをしていきます。子どもさんに悲しい思いをさせてしまい、申し訳ございませんでした。

また、水遊びをしていないのにしているかのようなお手紙が貼り付けてあったとのこと、支援員同士の共有がうまくできていなかったのではないかと想像いたしました。大変申し訳ございません。支援員の連絡ノートにも記載し、子どもさんの学童での過ごし方について、関わる支援員全体が把握しご連絡するようになっています。

●学童クラブでの日常の遊びや活動、行事が工夫されていると思いますか

回答

夏休みは、支援員がさまざまな遊びの工夫をしてくれています。特に工作に力をいれていますが、工作に限らず、子どもたちと、普段の生活の中で出てきた言葉などからイベントを一緒に作り上げていくのが本来の姿だと思います。

特に行事の在り方を根本的に考え直すよい機会でもあります。支援員の考えた行事を当たり前に行うのではなく、子どもと一緒に作っていく学童クラブ（子どもたちの居場所）になっていたらと思っています。

【外部の講師をお呼びしての育成】

夏休みは「ひょうたんライトづくり」（須田芳己氏/ひょうたんライトを発明した方）、「かがくあそび」（阿部昌浩氏/麻布かがくあそび教室 室長）と外部の先生をお呼びして実施しました。昨年ひょうたんライトづくりをした学童は「ハーバリウムづくり」（齋藤真由美氏）をしました。育成中には「北さんとあそぼう！」や「忍者修行」（北島尚志氏/NPO 法人あそび環境 Museum アフタフ・バーバン元理事長）などのワークショップを実施し、大変好評でした。夏休みは支援員の工夫で様々な工作を行っております。保護者の方へ実施していることをどのよ

うにお伝えしていくか支援員と一緒に考えてまいります。

【夏休み、毎日アニメのDVDという感じだったと聞いており、工夫があると良い】

回答

夏休みは支援員がいろいろ工夫してイベントも考えてくれています。「毎日アニメのDVD」というのも学童の生活に必要なのかも支援員と考えていきます。イベントごと支援員が主体になっておりますが、日々の生活の中で子どもたちがやってみたいことを拾って、どうしたら実現できるか一緒に考えていきたいと思えます。

【図書室での生活のため、物足りなさを感じているようです】

回答

清瀬小第1学童クラブは、想定外の児童数の増員のため、やむを得ず図書室での育成になったことにつきましては大変申し訳ありません。法人として反対をいたしました、急に受け入れをできなくなると困るご家庭があることを考え、条件をつけて受け入れをいたしました。

図書室の椅子とテーブルを低学年の児童にふさわしいものにしていただくこと。図書室での育成は2022年度限りとすること（2023年度は学童にふさわしい場所の確保をすること）の2つの条件を提示させていただきました。

異年齢で過ごす生活の場であるはずの学童の育成が学年ごとの育成になってしまったことも大変残念でした。登所時間が異なるため、児童の移動などを考慮し、学年毎の育成となってしまいました。昨年11月ごろからは、自由に自分で部屋を選んで過ごしてもらうようにし、少しずつ学年の垣根を越えて関わりをもてるようになってきていると感じています。図書室での育成には、スタート前後にも保護者の方々には、心配や不安な思いをさせてしまいました。支援員も様々な工夫をしてどうにか1年を終えようとしております。児童にとっても安心な場所として清瀬小第3学童クラブとして、新たな場所の確保もでき、これからも保護者の方々のご協力をお願いいたします。

【休息タイム、保育園でも寝ていなかった。リズムに多少影響】

回答

暑い夏に疲れが出て必要な子どもさんもあり、休息タイムを実施しております。子どもに希望を聞いて実施していきたいと思えます。

【自分から友だち作りが難しい子ども】

回答

保護者の方が理解してそっと見守ってくださっていることが、お子さんにとっては安心なことと思えます。学童クラブにおいては、困っているお子さんを手助けしていきたいと思っており、こちらから話しかけて思いを聞き、見守っていく姿勢で関わりを築いていきたいと考えております。特にデリケートな状況や時期で配慮が必要なこともあるかと思えます。ご心配なことがありましたら、遠慮無く連絡帳などでお知らせいただき、保護者の方と一緒に子どもを見守っていただけると思えます。

【イベント、保護者も参加できると嬉しい】

回答

コロナ禍で、保護者会もなかなか開催できない状況がありましたが、ようやく終息の方向に向かい始めました。5類に移項されたら、コロナ禍以前のようなこともできるのではないかと思います。保護者会もなくなったり、減ったりはありますが、学童のイベントとして保護者の方となにかできると嬉しく思います。一緒に考えてくださると有り難いです。

●おやつはお子さんに適した内容や量になっていると思いますか

おやつについては、子どもの意見からも好き・嫌い、量について、様々な意見があります。それだけ、食については子どもの身体をつくるエネルギーですので、興味関心が高いのだと感じております。2022年5月16日、学童クラブのおやつの研修会を全国的に行っている平本福子氏（宮城学院女子大学名誉教授）にお願いし、「学童クラブのおやつ、大切なこと」と題して研修会を実施いたしました。オンラインでしたが、全ての学童クラブの支援員が参加しました。学びながら、少しずつ理想に近づいていきたいと考えます。

【コンビニのお菓子というのが複雑】

回答

添加物の入ったおやつの提供を少しでも改善したいこと、また19時までの育成になったのでお腹にたまるおやつの提供をしたいと考え、おにぎりやパンなどの提供を始めました。子ども食堂などを行っているところへおにぎりを作ってもらえないかと交渉にも行きましたが、数が限られ難しいこともありました。市内の福祉施設のパン屋クッキーについても割高になったり、配達が難しいなどが壁になり断念せざるを得ず、交渉したコンビニが配達してくれることになり、今の形になっています。

法人としては、手作りが理想と考えております。保育園では、みんな手作りのおやつを食べていましたから。今の学童クラブの施設には麦茶を沸かすくらいの器具（ガス台やIH）しか無い状況です。施設もコップを洗うのも不便な流しだったりします。調理できる環境もないということですが。

そのため2021年度に指定管理となった梅園・清明小・四小学童クラブでは、法人が調理室を借りてとうもろこしを茹でたり、フルーツポンチの提供を試みました。フルーツポンチは子どもが炭酸かジュースを選んでフルーツの入ったカップに注いだりしたので、ほんの少しの手作り感を味わっていました。梅園学童ではお汁粉を年明けに提供をしました。器具がなくてもできることを、そして、少しずつ器具も揃えながら、支援員と一緒におやつを作るようにしていきたいと思っております。

【おやつの量わからない】

回答・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

分かりづらく申し訳ありません。おにぎりは、セブンイレブンの協力を得て、配達していただいております。

【おやつ配達の課題】

回答・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

おやつの配達してくださる業者を探すのが、とても大変な状況です。

- ・市内のお店に実際に出向き、配達してもらえるか確認しながら探しています。
 - ・お肉やさんのコロッケも全学童が同じ日に大量に作るの難しいので曜日を分けています。
- ヤクルトさんやセブンイレブンは配達できる曜日が固定になっておりますし、そのため同じ曜日に同じようなおやつがメニューに入っています。塾などの習い事で同じ曜日に休むため、いつも〇〇は食べられない・・・というのを改善するために、時々配達曜日を変更することもあります。子どもたちの意見を聞くことも大切ですので、誕生日会、セレクトおやつ、フレンドショッピングなどで、学童ごとに多少の違いはありますが、子どもたちに企画してもらうこともいいと思います。

【片寄りがあり好きな味が残っていない】

回答・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

おにぎりや納豆巻き、パンなどの味の違う物の提供のことだと思います。各学童クラブによって、嗜好に偏りがあります。1月ころより解消するために各学童クラブの発注数を提示していただくようになったので、大分解消されていると思います。

また、配達してくれる業者の事情により、生もの（おにぎり、コロッケなど）は当日の提供になりますので同じ曜日になってしまい、申し訳なく思います。

●学童クラブの支援員の対応（言葉遣いや態度を含む）は適切ですか

【こちらのミスや落ち度をわざわざ返すような言い回しをされる方がいる】

【子どもは少し怖い先生がいると言っていた】

【先生が頻繁に代わり、名前や顔がわからず不安である。熱心さも伝わってこない】

【1年生に対しての注意するところ（言い方）をもう少し考えて欲しい】

【よい雰囲気先生ばかりだが、児童に対して注意ばかりしている先生が逆に目立ちます】

【子どもの前で「今日もやっちゃったんだよね」とおっしゃっていて、自宅では”やっちゃった”という言葉は一度も使ったことがなかったので驚いた】

回答・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

どの学童クラブでも、「丁寧に対応していただいています」「勉強しているなあと感じた」、子どもとの心温まるエピソードもたくさんいただいております、支援員にとって励みになります。ありがとうございます。

しかし残念ながら、上記のようなご意見もいただいていることについて、支援員の対応がまち

まちだったことがアンケートから明らかになりました。報告いただき、ありがとうございます。2022 年度は、北島尚志先生による研修会を 4 回実施しました。「学童保育って何だろう？」と「子ども主体の学童の運営とは」をテーマに遊びを取り入れた研修会を実施しました。その中でも子どもの人権についてのお話もいただいています。

『人権を尊重すること＝丁寧にするのですが、もしもこのときの言葉を丁寧に言ったとしても、それが人権を損なう関わりであれば、それは NG です。』

人格の否定をしないなど、基本的な姿勢が必要です。今後も研修会の実施はもちろん、支援員と一緒に考えていきたいと思っています。

子どもに対しての叱り方については、子どもの命に関わること以外、怖い必要は全くないと思います。また、言葉遣いについて、乱暴で邪険な言葉遣いは、子どもからすると拒否的、非許容的に聞こえるので、言葉遣いには配慮が必要です。子どもの人権を尊重していくためには、「こうだからこれはしていい、これはしちゃだめ」と理解するのではなく、常に考え続ける姿勢、学ぶ姿勢を子どもと関わる支援員の姿勢がとても大切なのだと思います。

支援員は子どものことが大好きです。思いがいっぱい詰まり、あふれてしまってコミュニケーションに失敗してしまったと反省する場面もあるようです。支援員同士がフォローし合い、より子どもにとっていい居場所になるよう、今後も精進してまいります。これからも支援員の資質向上のために様々な内部研修会や全国指導員学校などの情報を発信し、自己研鑽の意識を高めていきます。

●支援員に気になることや心配なことを相談できますか

【学童に行きたくないという行きしぶりがあり、何と相談していいのか少し困った】

回答

小学生になり、ひとりで帰れるようになるとお迎えもなくなり、支援員と話す機会も少なくなってきます。十分ではありませんが、少しでも子どもたちの様子を伝えたく連絡帳でお伝えもしております。また、学童クラブの様子を写真つきのおたよりで数ヶ月に 1 回程度発行しています。これからも工夫していきます。

学童クラブでは、子どもが登所してから 30 分ほどで帰る子どももおり、帰宅時間がまちまちで曜日によって変動します。ひとりで帰る子どももいるため、安全を考えると支援員も保護者の方とできるだけお話しする機会を持ちたいと思っております。個人面談など、決められた期間だけではなく、必要と思われたときは遠慮なさらずに学童クラブに電話でご相談ください。ピッコロ事務所でもかまいません。

●お子さんが学童クラブでけが（すり傷・切り傷等を含む）をしたり、体調が悪くなったりした時の対応は適切だったと思いますか

【すぐに連絡は来たが説明不足。また、支援員が誰も見ていないとのことだった】

回答
こどもが過ごす場所にはいつも支援員を配置し、すぐに手助けできるようにと日々心がけていますが、何か起きたときの瞬間をみていないこともあることは事実で、大変申し訳なく思います。何かあったとき、うやむやにしていると子どもも納得できませんので、子どもから話を聞いて丁寧に対応したいと思っています。また、学童クラブで起きた怪我や病気については、すぐに保護者の方へ連絡をします。迎えに来ていただき、病院受診もお願いしています。

●お子さんや保護者のプライバシーを学童クラブでは守ってくれていると思いますか

【学童でのトラブルで直接相手の親から連絡が来たが、しっかりと対応してくれた】

【家族に関する話を聞いてしまったことがある】

回答
学童クラブでは、配置する支援員・アルバイト、ボランティアであっても個人情報を守って活動していただくよう、契約をしております。常に意識していないと何がない会話で出てしまうことがあります。よかれと思って親しく遊んでいる子どもの名前を伝えてしまうこともあるようですので、アンケートに記載いただいたことをきっかけに、もう一度支援員同士で共有する機会を持つことができました。

●お便り(連絡帳)や支援員との会話からお子さんの様子が伝わりますか

【連絡帳に様子を書いて下さる方は限られますが、その時は様子がわかって嬉しい】

【学童での生活は実際よくわからない】

【せっかくノートがあるのに、学童での様子などを記入されることはなく、心のこもった対応を感じられず、残念である】

回答
保育園のように毎日様子をお伝えすると学童でのことが分かります。学童クラブは、ほとんどの子どもが学童へひとりで登所してきて、ひとりで自宅へ帰って行きます。登所して30分で帰ってしまう子どももおりますので、児童の受入れ・連絡帳確認・おやつ提供・宿題とめまぐるしいときもあります。日によっては5分単位で降所時間が変動し、連絡帳に日々の記録をすることが難しい状況があります。
そこで、なるべく連絡帳に記入しますが、写真付きのおたよりを作成して、子どもたちの様子がよく分かるようにしていきたいとも考えております。今年度も発行しましたが、2ヶ月に1回とか毎月のおたよりの裏面に印刷するなど工夫できたらと考えております。

保護者の方へのお知らせを速やかに行うべき時はお電話にてお子さんの様子をお伝えしています。普段の生活のなかで、気になることがありましたら連絡帳をご利用いただくか、お電話をいただくとこちらからも速やかに様子をお知らせすることができます。お気軽にお声掛けください。

【おたよりはウェブ上で】

小学校もお便りは必要な方にだけ配布しているようです。学童においても、今後の課題といたします。

●お子さんへの健康管理（食物アレルギーや感染症対策も含む）への対応は丁寧にされていると思いますか

【新型コロナウイルス感染症の対策は？】

回答

新型コロナウイルス感染症については、保護者の皆さまにもご協力いただき、ありがとうございました。学童クラブにおいても、あまり神経質になりすぎること子どもさんたちへの影響があってはならないと考えておりました。そこで、5月20日、国立看護大学校の教授/渡邊香先生にご指導いただく機会を得て、消毒をどこまでやったらいいのか、フェイスシールドは効果があるのかなどのお話を伺いました。特に神経質になっていた消毒については、少し緩和されたと感じております。

保護者の方へお願いしておりました検温についてですが、おっしゃるとおり、学校での検温表もありますので、両方へ伝える必要は無いかと思えます。しかしながら、指定管理となりながらも清瀬市の指導のもと運営されておりますので、独断で決定することができない状況です。

【体温記入】

小学校へ登校して、学童に登所してくるのに、朝の体温は必要ないと考えます。それが清瀬市の指導であったから引続きそのようになっておりました。慣習について、本当に必要なのか疑問がある時には、支援員と一緒に考えていきます。

【アレルギー対応について】

学童クラブの児童のアレルギー対応については、小学校に準じております。アレルギー対応をいたしますが、医師の診断をお願いし、学校に提出する「学校生活指導表」のコピーを提出いただいております。重症の場合は、さらに、書類提出をお願いする場合があります。おやつの場合、卵アレルギーのみ除去のメニュー表を作成し、対応しております。また、他の食品アレルギーについては、各学童クラブで個別に対応をいたしますが、学童での対応が難しい場合、保護者の方の協力を得て、持参していただく場合もあります。（今現在は持参してくる児童はいません）

【学童でおやつに 15 分かかり濃厚接触者になったため予定がキャンセルになった】

新型コロナウイルス感染症については、様々な場面で、大勢の方々にご協力をいただきました。集団生活ですのでこのようなことがおこらないよう十分な配慮をして参りましたが、予定がキャンセルになったことについては、残念だったと思います。申し訳ありません。当初の濃厚接触者の判定が、マスクを外して 15 分以上飲食をしている状態があったため対象となってしまいました。国の基準も状況によって変更になりますので、都度ルールを確認し対応してまいります。

**●防犯や防災に対する対応についての説明は丁寧にされていると思いますか
【避難訓練が毎月同じ曜日（子どもが習い事で休む日）なので、参加できていない】**

回答

避難訓練については、同じ曜日での実施から、次年度は曜日を変え、時間帯も変えながら、いざというときの備えをしていきます。

【説明されたかわからない】【おぼえていない】

回答

「児童の安全のために」というしおりを年度初めに全員に配布しております。「台風・悪天候」「大規模地震に備えて」「不審者（防犯）対策」「健康・安全」「一斉下校・集団下校について」が記載されております。今一度ご確認ください。もし、お手元に無い場合は、学童クラブまでお知らせください。

【防犯対策、不審者が入ってきた時の対応はどうしているのか。女性の先生がほとんどなので】

回答

年に 1 回、東村山警察署の担当の方が来てくださり、セーフティー講習会を実施しています。子どもたちの交通安全についても指導を受けております。また、救急救命講習を年 1 回実施し、「児童への救命対策（AED）」「怪我をした時の止血法」「熱中症についての対策とかかかってしまったときの対処法」などを学びます。

【玄関が開いている時、お迎えに来ても気づかない先生が多いので、不審者などにすぐ気付くか心配な時がある】

回答

お迎えがあると玄関を開けたまま、児童に声をかけに部屋の中へ行き、そのような状況になったそうです。人数が多いと玄関を空けたまま、そこから離れるのは危険だと思っています。インターフォンで迎えの方の名前を確認の上、児童に声かけ、児童と一緒に玄関に出るよういたします。学童クラブ支援員に安全について再確認いたします。

●利用開始時にうけた入所説明はわかりやすかったですか

【指定管理になって、これまでと何が変わるのか教えて欲しい】

回答

違いというより、当団体の方針のご説明になるかと思いますが、学童クラブは、保育園に入所していた子どもたちが移行して入所してくる場合も多く、子どもたちが過ごす大切な放課後の居場所です。自分と他者との違いに気付き、自分を知っていく学齢期の特徴を理解し、育成していけるよう支援員研修や支援員の処遇改善にも取り組み、専門職として子どもとの関わりをより充実したものにしていきます。子どもアンケートを実施し、子どもの声を聞き、管理体制による育成ではなく遊びを中心に自らが考え行動して過ごす学童を目指しています。

2015 年厚生労働省から出されや学童クラブ運営指針に則り、NPO法人子育てネットワーク・ピッコロとして学童クラブの育成指針を作成しています。

子どもたちからアンケートで出された意見を受け止め、学童クラブが子どもたちにとって、寄りやすく安全に安心して過ごせる居場所に改善していきます。

おやつについては、毎日、乾き物のお菓子から、果物・ヨーグルト・コロッケ・パン・おにぎりなどの提供にしています。近い将来は、手作りおやつにも取り組みたく、支援員には細菌検査を毎月実施しています。

更に、一人ひとりの子どもたちと向きあうように、配慮が必要な子ども、異年齢で過ごす学童クラブの良さを活かせるように、専門職として全国で実施される研修会の保障、活動内での研修に取組んでいきます。児童に特化した作業療法士が全学童クラブに月 1 回巡回のコンサルテーション、日本社会事業大学の子どもの専門家による各学童クラブ内でのケース会議等、今まで実施されていなかったことに取り組みます。また、子どもの育成中に各分野の専門家によるあそびやワークショップを取り入れて、子どもの様々な体験の機会を提案します。

●学童クラブの支援員は、あなたが困ったときに相談できる苦情窓口の説明は伝えてくれましたか

【申し訳ないですが、覚えていません】

回答

支援員も保護者の方とできるだけ話しする機会を持ちたいと思っております。個人面談など、決められた期間だけではなく、必要と思われたときは遠慮なさらずに学童クラブに連絡帳や電話でご相談いただきたいと思います。また、支援員に直接話しづらい場合は指定管理のピッコロへお電話いただきたいと思います。

苦情相談窓口については、「学童クラブしおり」P.12 に法人の連絡先、P.13 に外部の専門職の方への連絡先がございます。

●学童クラブに対する意見・要望

【庭の砂ぼこり、なんとかなると嬉しいです。上履きの汚れが落ちません】

回答

中清戸学童クラブ保護者の方からの要望です。指定管理公募になったときに施設見学させていただき、そのときからの課題になっております。行政にも相談したところ、芝を6畳ほど頂戴しましたが支援員が血豆を作りながらも頑張ってくれました。少しは子どもたちが外で転がれる場所になっていますが、子どもの人数には狭すぎるため解決にはなっていない状況です。

2022年度、工務店さんに相談し、見積書を作成していただきました。予算も限られておりますが、どうか専門家の知識もいただきながら改善に踏み出していきたいと思っております。

【トイレが少ないので増やしてほしい。部屋も小さいので増設して欲しい】

回答

中清戸学童クラブの保護者の方からのご意見です。上記、砂ぼこりの課題と共に課題となっております。大がかりの工事になるため、行政にも伝えておりますが、今のところ難しい状況です。それでも児童数に対して必要ですので、これからも訴えていきます。

【このアンケートも URL にアクセスし、回答したり、急な休みの時の電話などもメール等でできると助かる】

回答

おたよりもウェブ上でという意見がありました。社会の流れとして、紙ベースではなく電子化していく方向性が示されています。アンケートについては業者に相談しており、ご提案のように進めてまいりたいと思っております。また、急な休みなどの連絡方法について、小学校も朝8時までにメールで受信できるようにしていると聞きました。一度、支援員と話したときに、保護者の方にとってはメール連絡は大変便利なのではないかと思うこと、また時には電話をいただいたときに、日頃話せないことをお伝えできる良さについての両面の話ができました。保護者の方の忙しさが分かるだけに便利にすることも必要で、日頃伝えたい気持ちを連絡帳ではなく、直接お伝えしたいという支援員の気持ちもわかります。一度、支援員全体で話合う機会を持ち、決定していきたいと思っております。

【学童では清瀬小学校のツイタモンが使用できないため、長期の休みはとくに無事についたのか不安になる。学童に到着、または出発の際にメールなどで保護者にお知らせが来るようにすると安心かと思う】

回答

小学校のツイタモンについては、昨年秋に知る機会がありました。確かに子どもの位置確認を

するためには安心かと思います。限られた運営予算の中で可能かどうか、検討事項といたします。

【車での送迎も可能になるようにしてほしい】

回答.....

小学校の車の出入りは児童の安全のために、大変厳しく制限されております。駐車場が狭いだけでなく、小学校や学童クラブの前に駐車することで救急車両が通れなくなるためもあります。ご不便をおかけしますがご協力をお願いいたします。

【土足厳禁？見送りをしてそのまま室内に入っていたので…衛生上気になる】

回答.....

少しでも見送りたい、また早く室内に入り育成に戻りたい気持ちからの行為ですが、ご指摘の通り衛生面でよくありません。支援員もよく意識しこのようなことがないように気を付けてまいります。現在は、雑巾を用意し拭いて中に入るようにしております。

【夏休み時のシャワー、洋服…何か他に良い方法はないのでしょうか？着替え等はどのようにしているのでしょうか？（男性、女性（異性）の支援員がいるので）】

回答.....

清明小学童クラブの夏休みの午前中のシャワーは、今年の暑い時期、子どもたちに大変好評でした。プールではないため、男女一緒に遊ぶことを考えると洋服のまま行っております。今後については支援員と考えて保護者の皆さんへお伝えします。

着替えについては、できないところだけ手伝うように配慮します。

【NPO 法人が一社で独占的に事業を行っているのも好ましいと思えない】

回答.....

率直な意見をありがとうございます。どのような点が好ましくないのか教えていただけたら有り難いと思います。2023年度からは2社となりました。NPO 法人の性質上、営利を追求する本質ではなく、独占的に行うことは考えておりません。指定管理者ですので、いつも清瀬市の行政の方からの指導を受けながらの実施となっております。地域の子どもによりよい育ちの環境をとという姿勢はどこにも負けないつもりでおりますが。運営のスキルとしてはまだまだ至らないところもございますので、保護者の方、地域の方、たくさんの方々のお力とお声をいただくことが大切と考えております。今後ともどうぞ忌憚のないご意見をお寄せいただけたらと思います。

【今夏、知らないうちに、弁当制度を取り入れている家族があると聞き、情報が来てないことを不満に思う】

回答.....

初めて仕出し弁当の試行を始めてくださった保護者の方が全員の保護者の方へお知らせすることを考えていただきましたが、不安があるとのことで夏休みについては何人かのグループで始められました。あくまでも試行としてこの経緯を踏んで、冬休みには全保護者の方へお知らせしていただきました。仕事をしながら新しい試みを提案するのは勇気のいることだと思いますので、手を挙げてくださった保護者の方には感謝しております。皆さんにお知らせできなかったことは大変申し訳ありません。

【上履き忘れの場合の対応について】

回答.....

子どもの忘れ物があります。大人でも忘れることがあります。そういうときは、上履きなしでの育成になりますが、寒い時期などは、学童にあるもので対応することも考えております。

【新型コロナウイルス感染症に対する対策について】

この3年間は新型コロナウイルス感染症の流行があり、症状やそのウイルスが未知のものだったため、大変な不安を抱えながらの育成になりました。保護者の方々にとっても同じだったのではないのでしょうか。

清瀬市の学童クラブは、東京都の感染予防にならって指導を受けます。